

2018年(平成30年)12月1日(土曜日)

三島市ブランド
協議会補助金

審査会開かず交付

市議会
市側答弁
記録も残しておらず

三島市が事務局を務める「三島市地域ブランド推進協議会」への市の補助金を巡り、渡辺義行産業文化部長は三十日の市議会一般質問で、補助金交付に必要な手続きとなる審査会を開かなかったことを認めた。記録を残していないことも明らかになり、事務手続きの不透明さが浮き彫りになった。

補助金は一事業当たり五十万円が上限で、交付には審査会の開催が条件。上限を超えるには市長が特別に

認める必要がある。市は二〇一六年九月十四日に「審査会を実施し、審査員了承済み」として二百万円の交付を決めていた。関係者によると、実際には審査会も市長協議も行われていなかったという。

佐藤寛文市議(清論会)の質問に対し、渡辺部長は「審査会はしていないが、審査員がいた会議で話し合い、了承を得たので、審査会がなされたとみなしている。記録はない。当時の職員に聞いて判断した」と説

明。市長協議に關しても「当時の職員から一六年九月二十六日に行ったと聞いた」としたが、「記録はない」と話した。

この補助金は当初、「地元産のサツマイモ三島甘藷の商品開発」を目的として交付された。だが、市は一七年二月に開かれた食のイベント「アモーレみしま」の不足金を穴埋めするため、同年五月に使用目的を「箱根西麓三島野菜や市内農産物をPRするイベントの企画」に変更する一六年

十月付の文書を作成。一六年度協議会決算の改ざんや答弁訂正も行われた。一六年度当時の担当部長

だった三田操現健康推進部長は審査会を開かずに補助金交付を決めた理由について「渡辺部長と同じ認識だ」と答えた。

(佐久間博康)